令和３年度 （2021年度）

講　義　概　要

こころの時代を、ささえる人へ。

[作業療法学科]

ありがとう、と言われること。
電波学園

学校法人　電波学園
あいち福祉医療専門学校

教 育 課 程 表

医療専門課程

作 業 療 法 学 科 （昼間部）

区分	指定科目	指定単位数	授業科目		必修選択の別	必修単位	総授業時間数	第1学年				第2学年				第3学年			
								前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			科目	授業形態				時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活社会の理解	14	医療倫理・死学	講義	必修	2	30	30	2										
			心理学	講義	必修	2	30	30	2										
			統計学	講義	必修	2	30	30	2										
			情報処理	演習	必修	2	30	30	2										
			生物学	講義	必修	2	30	30	2										
			英語	講義	必修	1	15			15	1								
			人間関係とコミュニケーション	講義	必修	1	30							30	1				
			健康と運動	講義	必修	1	30	30	1										
			総合学習論	講義	必修	1	30	30	1										
	小計	14	小 計			14	255	210	12	15	1			30	1				
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1										
			解剖学Ⅱ	講義	必修	1	30	30	1										
			解剖学Ⅲ	講義	必修	1	30			30	1								
			解剖学Ⅳ	講義	必修	1	30			30	1								
			解剖学実習	実習	必修	1	45			45	1								
			機能解剖学Ⅰ	実習	必修	1	45	45	1										
			機能解剖学Ⅱ	実習	必修	1	45			45	1								
			生理学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1										
			生理学Ⅱ	講義	必修	1	30			30	1								
			生理学実習	実習	必修	1	30			30	1								
			運動学Ⅰ	講義	必修	1	30	30	1										
			運動学Ⅱ	講義	必修	1	30			30	1								
			運動学実習	実習	必修	1	30			30	1								
			人間発達学	講義	必修	1	30			30	1								
			中間 小計			14	465	165	5	300	9								
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	臨床心理学	講義	必修	1	30			30	1								
			内科学	講義	必修	1	30			30	1								
			整形外科学Ⅰ	講義	必修	1	30					30	1						
			整形外科学Ⅱ	講義	必修	1	30							30	1				
			神経内科学	講義	必修	1	30					30	1						
			脳神経外科学	講義	必修	1	30					30	1						
			精神医学Ⅰ	講義	必修	1	30					30	1						
			精神医学Ⅱ	講義	必修	1	30							30	1				
			小児科学	講義	必修	1	30					30	1						
			老年学	講義	必修	1	30			30	1								
			地域医療学	講義	必修	1	15					15	1						
			リハビリテーション医学	講義	必修	1	30	30	1										
			画像診断学	講義	必修	1	30							30	1				
			薬理学	講義	必修	1	15					15	1						
			栄養学	講義	必修	1	15							15	1				
			健康支援学	講義	必修	1	30							30	1				
			中間 小計			16	435	30	1	90	3	180	7	135	5				
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	必修	1	30	30	1										
			理学療法学概論	講義	必修	1	15	15	1										
			言語療法学概論	講義	必修	1	15	15	1										
			保健医療福祉概論	講義	必修	1	30	30	1										
			中間 小計			4	90	90	4										
	小計	30	小計			34	990	285	10	390	12	180	7	135	5				
専門分野	基礎作業療法学	5	作業療法概論	講義	必修	2	30	30	2										
			基礎作業学	講義	必修	1	30			30	1								
			基礎作業学実習Ⅰ	実習	必修	1	30			30	1								
			作業療法研究法	講義	必修	2	30							30	2				
			中間 小計			6	120	30	2	60	2	0	0	30	2				
	作業療法管理学	2	作業療法管理学	講義	必修	2	30							30	2				
			中間小計			2	30	0	0	0	0	0	0	30	2				
	作業療法評価学	5	作業療法評価学Ⅰ	講義	必修	1	30			30	1								
			作業療法評価学Ⅱ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法評価学Ⅲ	講義	必修	1	30							30	1				
			作業療法評価学実習Ⅰ	実習	必修	1	30					30	1						
			作業療法評価学実習Ⅱ	実習	必修	1	30							30	1				
			中間 小計			5	150			30	1	60	2	60	2				
	作業療法治療学	19	作業療法治療学Ⅰ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法治療学Ⅱ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法治療学Ⅲ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法治療学Ⅳ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法治療学Ⅴ	講義	必修	1	30					30	1						
			作業療法治療学Ⅵ	講義	必修	1	30							30	1				
			作業療法治療学Ⅶ	講義	必修	1	30							30	1				
			作業療法治療学Ⅷ	講義	必修	1	30							30	1				
			作業療法治療学Ⅸ	講義	必修	1	30							30	1				
			義肢装具学	講義	必修	1	30					30	1						
			義肢装具学実習	実習	必修	1	30							30	1				
			日常生活活動学	講義	必修	1	30					30	1						
			日常生活活動学実習	実習	必修	1	30							30	1				
			レクリエーション学	講義	必修	1	30					30	1						
			職業関連活動学	講義	必修	1	15							15	1				
			作業療法治療学演習	演習	必修	4	120										120		4
			臨床作業療法学	講義	必修	4	120										120		4
			中間 小計			23	675	0	0	0	0	240	8	195	7		240		8
	地域作業療法学	4	地域作業療法学	講義	必修	2	30					30	2						
			生活環境学	講義	必修	2	30							30	2				
			中間 小計			4	60					30	2	30	2				
	臨床実習	22	地域作業療法学実習Ⅰ	実習	必修	1	40	40	1										
			地域作業療法学実習Ⅱ	実習	必修	1	40					40	1						
			臨床実習Ⅰ（見学）	実習	必修	2	80			80	2								
			臨床実習Ⅱ（評価）	実習	必修	5	200							200	5				
			臨床実習Ⅲ（臨床）	実習	必修	16	640										640		16
			中間 小計			25	1000	40	1	80	2	40	1	200	5		640		16
	小計	57	小計			65	2035	70	3	170	5	370	13	545	20		880		24
総計		101	総計			113	3280	565	25	575	18	550	20	710	26		880		24

講義及び演習にあっては、15時間または30時間をもって1単位。実験及び実習にあっては、30時間または45時間をもって1単位。
臨床実習は、40時間をもって1単位とする。

授業概要			
医療倫理・死学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野口 恵美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

1. 医療にかかわる人としてのあるべき姿について学ぶ
2. 目ざましく進歩する医療を知るとともに，避けることのできない人の生と死について考える機会とする．

[授業全体の内容の概要]

1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわり．
2．医療・介護の中でのスタッフとしての役割3．人の生命の誕生と避けることのできない死について．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわりを知る．
2．医療・介護の中でのスタッフとしての役割を知る．
3．人の生命の誕生と避けることのできない死について考えることができる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	医療倫理・死学とは ＊但し，受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある．
2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて
3	医療の安全・事故防止
4	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応
5	情報開示
6	個人情報の保護
7	生活習慣病と老人の死
8	ターミナル期と死をどこで迎えるか
9	宗教と死
10	医療の変化
11	感染症
12	自己の健康管理
13	地域との連携
14	リハビリテーションの今後の可能性
15	試験の返却とまとめ これからの職業人として

[使用テキスト・参考文献]

テキストは使用せず．

参考文献

1．日本経済新聞の医療・介護に関する記事
2．ダイヤモンド・東洋経済等の週刊誌の特集記事
3．文芸春秋，NHK きょうの健康等の月刊誌の特集記事
4．ボクはやっと認知症のことがわかった　長谷川和夫（KADIKAWA）
5．国民衛生の動向　2019/2020　（厚生労働統計協会）
6．感染対策のレシピ　　矢野邦夫　（リーダームハウス）
7．死とどう向き合うか　アルフォンス　デーゲン　（NHK ライブラリー）
8．飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ　　井村和清　（祥伝社）
9．鎌田實の著書より「がんばらない」「あきらめない」他
10．詩と死をむすぶもの　　谷川俊太郎・徳永進　（朝日新書）

[単位認定の方法及び基準]

出席態度：10%
課題発表とレポート 20%
グループワークの発表と記録 10%
期末試験：60%　60%以上で合格．

授業概要			
心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増谷 千晶	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

基本的な心理学理論を理解し，人と人，人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する．その上で，対人援助をしていく際の注意点等を理解する．

[授業全体の内容の概要]

心理学とは何か，人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え，理解していく．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

対人援助をしていく上で，他者理解，あるいは自己理解の重要性に気づき，実際の現場でそれを生かせるようにする．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	心理学とはなにか
2	知覚の特性
3	学習（条件付け等）
4	記憶（長期記憶・短期記憶等）
5	発達
6	知能
7	青年期（自我同一性）
8	性格・人格
9	人格の構造理論
10	心理療法
11	自己
12	家族
13	事例
14	社会心理
15	全体的なまとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「はじめてふれる心理学［第2版］」（サイエンス社）	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
統計学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

統計学に関する基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的としている.

[授業全体の内容の概要]

業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法について，基礎的な概念や考え方を学ぶ.
講義で扱う例題には，医療分野に関連した事例を多く取り入れている.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

実際の業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法が扱えるようになる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	統計学の概要
2	度数分布とヒストグラム
3	平均と標準偏差 その他の代表値
4	加法定理と乗法定理
5	ベイズの定理 ベルヌイ試行
6	確率変数と確率分布
7	平均（期待値） 分散
8	2項分布
9	正規分布
10	ポアソン分布
11	共分散と相関係数 回帰直線
12	母集団と標本抽出 標本分布
13	点推定と区間推定
14	母平均の区間推定
15	統計学のまとめと総復習

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
統計入門	8割以上の出席と，筆記試験の評価を80点，平常点を20点の合計100点満点のうち60点以上のいずれも満たした場合を合格とする.

授業概要			
情報処理	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	高橋 裕介佐名木 めぐみ	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達とWeb利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

作業療法士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

ワープロ、表計算、Web（インターネット検索・e−Mail）操作。ホームページ作成、プレゼンテーションの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	パソコンの基礎
2	パソコンの基礎
3	電子メールの基礎
4	メディカルオンラインの利用について
5	ipadの設定について
6	zoomの利用について
7	OneDriveの利用について
8	ワープロの基礎①
9	ワープロの基礎②
10	表計算の基礎①
11	表計算の基礎②
12	表計算の基礎③
13	プレゼンテーションツールの活用①
14	プレゼンテーションツールの活用②
15	テスト復習・プレゼンテーションツールの活用③

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
30時間でマスター　OFFICE 2016	学則第16条の1，2，3，4，5項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率40%、定期試験60% 上記比率の下、60点以上のものを合格として単位数認定

授業概要			
生物学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	加藤 清己	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年　前期	必修

[授業の目的・ねらい]

理学療法・作業療法学科において，解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり，それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする．

[授業全体の内容の概要]

解剖学・生理学の基礎として生物学の幅広い分野を体系的に理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

生物学の理解力が医学系専門知識の基礎として応用・発展できる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	生物の概念、多様性と一様性
2	細胞の構造と機能、細胞膜
3	生体物質、酵素
4	メンデル遺伝、ヒトの遺伝
5	遺伝子
6	タンパク質合成（1）
7	タンパク質合成（2）
8	心臓、血液
9	肝臓と腎臓
10	神経系
11	ホルモン、血糖量・体温調整
12	生体防御（1）
13	生体防御（2）
14	要点のまとめと復習
15	テストの解答と解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
使用テキスト　系統看護学講座　基礎 3　生物学　第 9 版　医学書院 参考文献　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学　第 4 版　医学書院	試験 80 点＋平常点 20 点．60 点以上合格

授業概要			
英語	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士になる上で必要な医学英語を知ることで，医療現場で使えるようになる．

[授業全体の内容の概要]

医療の現場ではいわゆる横文字や略語があふれている．そのため，医療現場で仕事をするには，医学用語を日本語だけでなく英語でも理解する必要がある．本講義では医療でよく使われる単語を中心に，簡単な英文などを交え，講義をすすめる．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

医療現場でよく用いられる，解剖学（骨・筋・神経）・運動学（運動方向・肢位）・疾患名・職種などの英単語を覚える

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	リハビリテーション・医療に関わる職種・領域
2	作業療法と作業療法士　　理学療法と理学療法士
3	身体の方向・断面・ＲＯＭ
4	神経系・骨・筋
5	脳血管障害・パーキンソン病
6	骨折・腰痛・スポーツ障害
7	英語（長文）の和訳
8	英単語の総復習

[使用テキスト・参考文献]

リハビリテーションの基礎英語　改訂第３版　メジカルビュー社　　医学英和辞典　　英和辞典

[単位認定の方法及び基準]

小テスト：20%．課題：10%．期末筆記試験：70%．60点以上合格．

授業概要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	熊崎 正実	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

患者・利用者との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論を学ぶ。

作業療法士が狭い経験や専門性のみに依拠せずに、広く人間を捉え謙虚に学び続けることを基礎とする。そして、その上に"医療の目"を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、医療における倫理的課題について考えさせる。併せて、人間として必要なコミュニケーションの基礎を身につける。

[授業全体の内容の概要]

人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、活動の場に観る人間関係を知り、コミュニケーションの構成要素、態様を捉え、技法演習を通して自らのコミュニケーション能力を認識する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

コミュニケーションの構造を理解し、作業療法士として活動する場における自己のコミュニケーション上の課題を見出す。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	人間らしさのはじまり
2	主体の構造（意識と無意識）
3	「発達」「社会性」からみた人間関係（1）
4	「発達」「社会性」からみた人間関係（2）
5	人間関係とストレス
6	コミュニケーションの構造・手段（1）
7	コミュニケーションの構造・手段（2）
8	コミュニケーションの構造・手段（3）
9	作業療法士のコミュニケーション（病院・施設における場合）
10	作業療法士のコミュニケーション（在宅における場合）
11	組織におけるコミュニケーション（1）
12	組織におけるコミュニケーション（2）
13	組織におけるコミュニケーション（3）
14	演習
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
適宜資料を配布する。	定期試験により60%以上を合格とする。

授業概要			
健康と運動	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

運動を通して、人間関係を構築する。身体・精神面に与える各種運動の特性を知る。

[授業全体の内容の概要]

各種目ごとの技術に関する方法論やルールを解説しながら習得させる。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

練習や実践により互いに協力する態度，健康や安全に留意する能力を身に付けさせる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション 身体障害者・精神障害者、年齢、性別を考慮した運動とは
2	体操（基礎体力作り　団結力を高める）
3	体操（基礎体力作り　団結力を高める）
4	体操（基礎体力作り　団結力を高める）
5	体操（基礎体力作り　団結力を高める）
6	種目：フライングディスク・ドッチビー　ルールの説明
7	種目：フライングディスク・ドッチビー
8	種目：フライングディスク・ドッチビー 難易度・身体の条件を設定し実施
9	種目：フライングディスク・ドッチビー　難易度・身体の条件を設定し実施
10	種目：ボッチャ　ルールの説明
11	種目：ボッチャ
12	種目：ボッチャ　難易度・身体の条件を設定し実施
13	種目：ボッチャ　難易度・身体の条件を設定し実施
14	学生企画運動
15	学生企画運動

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	レポート課題と平常点（出席，授業態度）で　60点以上合格 レポート課題8割

授業概要			
総合学習論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

専門科目を学習していく上で必要な読解力，表現力，基礎知識を養う．課題を通して、レジュメ・レポート作成，発表に取り組み、解剖学・生理学・運動学の基礎を習得し関連づけを行う．

[授業全体の内容の概要]

基礎科目の理解と専門科目への備えとして，文章読解力・分析力・作成力・伝達力の向上をはかり，基礎科目の再確認をする．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法の礎となる、基礎科目（解剖学・生理学・運動学）の学びを深める．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	学力テスト
3	解剖学①
4	解剖学②
5	生理学①
6	生理学②
7	運動学①
8	運動学②
9	文章問題
10	文章問題
11	文章問題
12	文章問題
13	文章問題
14	まとめ・総復習
15	まとめ・総復習

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
ＰＴ・ＯＴ基礎から学ぶ解剖学ノート ＰＴ・ＯＴ基礎から学ぶ生理学ノート ＰＴ・ＯＴ基礎から学ぶ運動学ノート	試験　80点，平常点20点（授業態度10点，課題10点） 計100点　60点以上合格

授業概要			
解剖学Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用（人体のあらまし）について理解できる。神経系（中枢神経、末梢神経）脈管系（心臓、全身の動脈、静脈）について説明できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	人体のあらまし①
2	中枢神経系①
3	中枢神経系②
4	中枢神経系③
5	中枢神経系④
6	中枢神経系⑤
7	末梢神経①
8	末梢神経②
9	末梢神経③
10	末梢神経④
11	循環器系①
12	循環器系②
13	循環器系③
14	循環器系④
15	循環器系⑤

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂	「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂

授業概要			
解剖学Ⅱ(運動器)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法を行うにあたり，人体構造を十分に理解することが必要である．本講義では，四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ．人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい

[授業全体の内容の概要]

人体を構成する細胞および組織について学習する．リハビリテーション医学・医療を学ぶにあたって解剖学用語を習得する．筋の起始・停止・作用・神経支配を学習する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

頸部・体幹・上肢の起始・停止・作用・神経支配を理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	人体の細胞・組織
3	頸部・体幹
4	胸郭・骨盤
5	上肢帯・自由上肢骨
6	肩関節
7	肩の筋
8	上腕の筋
9	上腕の筋
10	前腕の屈筋
11	前腕の伸筋
12	手根管
13	手のアーチ
14	復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂、「骨学のすゝめ」南江堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
解剖学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

感覚器系（体性感覚・特殊感覚）、消化器系（消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道、肺）、泌尿器系（腎臓、尿路）、生殖器（男性、女性生殖器）について説明できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	泌尿器①
2	生殖器①
3	生殖器②
4	生殖器③
5	呼吸器①
6	呼吸器②
7	呼吸器③
8	消化器①
9	消化器②
10	消化器③
11	消化器④
12	感覚器①
13	感覚器②
14	感覚器③
15	感覚器④

[使用テキスト・参考文献]

「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂」

[単位認定の方法及び基準]

筆記試験．60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。

授業概要			
解剖学Ⅳ(運動器)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法を行うにあたり，人体構造を十分に理解することが必要である．本講義では，四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ．人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい

[授業全体の内容の概要]

人体を構成する細胞および組織について学習する．リハビリテーション医学・医療を学ぶにあたって解剖学用語を習得する．筋の起始・停止・作用・神経支配を学習する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

手・下肢の起始・停止・作用・神経支配を理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	小テスト
2	復習
3	母指球筋
4	小指球筋・中手筋
5	下肢帯・自由下肢骨
6	股関節
7	大腿の屈筋
8	大腿の伸筋
9	膝関節
10	下腿の屈筋
11	下腿の伸筋
12	足根管
13	足のアーチ
14	復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂、「骨学のすゝめ」南江堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
解剖学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23回	45	1年・前期・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

骨・筋・じん帯の構造を時限的に理解できるようになることを目的とする

[授業全体の内容の概要]

骨模型のスケッチや骨・筋・じん帯のそれぞれの目的をレポートや討論にて解決する

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

国家試験にて出題されている問題が解けるようになる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	上肢帯の骨のスケッチ
3	上肢帯の骨のスケッチ
4	上肢帯の骨のスケッチ
5	体幹の骨のスケッチ
6	体幹の骨のスケッチ
7	下肢帯の骨のスケッチ
8	下肢帯の骨のスケッチ
9	下肢帯の骨のスケッチ
10	口頭試問・小テスト
11	関節の形態
12	骨連結の仕組み①
13	骨連結の仕組み②
14	筋肉の構成について①
15	筋肉の構成について②

[使用テキスト・参考文献]

骨格筋の形と触察法　第2版　大峰閣、「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」、エッセンシャル解剖学テキスト&アトラス」南江堂、「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂

[単位認定の方法及び基準]

小テスト及び提出物の提出状況＝４０％

定期試験＝６０％

上記比率の下，60点以上のものを合格とし単位認定する．

授業概要			
機能解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	1 年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士に必要な触察について学習する.

[授業全体の内容の概要]

筋肉・骨・神経・血管について，実習する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	肩甲骨 僧帽筋
3	肩甲挙筋 小菱形筋 大菱形筋
4	広背筋
5	頭板状筋 頚板状筋
6	長肋筋 最長筋 腰方形筋
7	胸鎖乳突筋 前斜角筋 中斜角筋
8	大胸筋 小胸筋 鎖骨下筋
9	腹直筋 外腹斜筋 内腹斜筋
10	実技試験対応
11	実技試験対応
12	三角筋
13	棘上筋 棘下筋 小円筋
14	大円筋 肩甲下筋
15	上腕二頭筋 烏口腕筋

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
骨格筋の形と触察法　第2版　大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること	実技試験　60 点，小テスト 20 点，口頭試問 20 点， 60 点以上合格

授業概要			
機能解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23回	45	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士に必要な触察について学習する.

[授業全体の内容の概要]

筋肉・骨・神経・血管について，実習する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	円回内筋 橈側手根屈筋 長掌筋 尺側手根屈筋
2	浅指屈筋　深指屈筋　長母指屈筋　方形回内筋
3	尺側手根伸筋　小指伸筋　総指伸筋
4	長母指外転筋　短母指伸筋　長母趾伸筋 示指伸筋
5	実技試験対応
6	実技試験対応
7	腸骨筋 大腰筋
8	大殿筋
9	中殿筋 小殿筋
10	大腿筋膜張筋
11	縫工筋
12	大腿四頭筋
13	大腿二頭筋
14	薄筋　長内転筋　大内転筋
15	前脛骨筋 長趾筋 第三腓骨　筋 長母指伸筋

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
骨格筋の形と触察法　第2版　大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること	実技試験　60点，小テスト20点，口頭試問20点， 60点以上合格

授業概要			
生理学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	今田 英己	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

人体にみられる各機能の分子、細胞、組織、器官および個体の各レベルの特徴について学習し、生命現象を人体各部の機能を通して理解する。

[授業全体の内容の概要]

各器官系における特異的物質および解剖学基礎を復習し，それらと特異的機能との関係を説明する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

各器官系における機能の基本的過程，形態との関係および個体・集団との関係を説明出来る.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	生理学総論：身体の階層性、各組織、器官、生命現象、エネルギー生産
2	からだの科学的組成：体液、物質濃度、浸透圧、ホメオスタシス、負のフィードバック
3	細胞の構造と機能：細胞膜、細胞小器官
4	シナプス伝達：神経変性と再生
5	中枢神経系：脊髄、脳幹、小脳
6	中枢神経系：視床下部、大脳皮質
7	中枢神経系：脳の高次機能、記憶
8	覚醒と睡眠：脳波、睡眠、脳脊髄液の機能
9	筋の分類：骨格筋の構造、神経筋接合部
10	骨格筋の収縮：メカニズム、単収縮、強縮
11	筋収縮の形：筋紡錘とゴルジ腱器官
12	心筋：心筋の活動電位、興奮収縮連関
13	平滑筋：平滑筋の機能、の発生と収縮
14	感覚：適刺激と閾値、体性感覚、内臓感覚
15	特殊感覚：視覚、聴覚、平衡感覚、味覚

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
石澤光郎　富永淳「標準理学療法学・作業療法学　生理学」第 5 版　医学書院	筆記試験．60 点以上合格.

授業概要			
生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	今田 英己	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

人体にみられる各機能の分子，細胞，組織，器官および個体の各レベルの特徴について学習し，生命現象を人体各部の機能を通して理解する。

[授業全体の内容の概要]

各器官系における特異的物質および解剖学基礎を復習し，それらと特異的機能との関係を説明する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

各器官系における機能の基本的過程，形態との関係および個体・集団との関係を説明出来る．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	血液・退役：血液の機能、赤血球、溶結、貧血、白血球
2	身体の防御機構：液性・細胞性免疫、凝固メカニズム、血液型
3	血液循環：心臓の働き、心筋の活動電位の特徴
4	心電図：導出法、アイントーベン正三角形電気的心軸、波形の異常
5	血液の拍出量と血圧：心拍出量、静脈還流量、血圧の調整、動脈の弾性
6	心周期・負荷と収縮：収縮期、弛緩期
7	微小循環と物質交換：臓器循環、冠循環、脳循環、肺循環
8	呼吸：外内呼吸、呼吸運動、呼吸量
9	ガス運搬：ガス運搬、呼吸の調整
10	腎臓の構造と機能：尿生成、腎単位
11	尿の濃縮：利尿ホルモン、クリアランス、ろ過尿、尿の性状、排尿異常
12	酸塩基平衡：血漿の pH 調節、アシドーシス、アルカローシス
13	消化と吸収：消化の役割、口腔、胃、肝臓、小腸、大腸
14	内分泌；ホルモンの役割・構造、フィードバック、各腺のホルモンの作用
15	代謝・発生・老化：栄養素、生殖機能、老化

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
石澤光郎　富永淳「標準理学療法学・作業療法学　生理学」第5版　医学書院	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
生理学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ 廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

神経と骨格筋の各々の働きを測定し，実際に自分の目で観察することにより，その性質を理解すること

[授業全体の内容の概要]

各実習項目を行う前にその目的と基礎知識を得るための講義を行う

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

神経と骨格筋の各々の働きを測定し，実際に自分の目で観察する事により，その性質を理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	実習準備（機械の取り扱い，リンゲル液作成，コンピュータ操作）
2	実習準備（機械の取り扱い，リンゲル液作成，コンピュータ操作）
3	活動電位の記録と不応期の測定
4	活動電位の記録と不応期の測定
5	活動電位の峰分かれと伝導速度
6	活動電位の峰分かれと伝導速度
7	活動電位と外液 Na+，K+イオンの役割
8	活動電位と外液 Na+，K+イオンの役割
9	筋の単収縮，強縮
10	筋の単収縮，強縮
11	筋の長さ－張力曲線
12	筋の長さ－張力曲線
13	筋疲労
14	筋疲労
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
資料配布	レポート課題．60点以上合格．

授業概要			
運動学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士は理論的に身体の運動を理解しなければならない．この講義では身体運動はどのように行われているのか，ということも含め学んでいく．

[授業全体の内容の概要]

作業療法士が運動療法を展開するための基礎知識として，運動学全般の基本を理解し身体運動を理論的に学習する．また，必要となる生理学的な知識についても確認する

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

横紋筋の特性を理解する．身体におけるてこ原理を説明できる．知覚と運動に関して述べられる．筋の構造，タイプを理解する．関節の種類に関して述べられる．上肢、手指の運動のメカニズムを理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	てこの種類
3	関節の種類
4	関節の種類
5	骨の構造
6	筋の構造・筋活動と筋張力
7	上肢の構造と運動　（上肢帯）
8	上肢の構造と運動　（肩関節）
9	上肢の構造と運動　（肩関節）
10	上肢の構造と運動　（肘関節・前腕）
11	上肢の構造と運動　（手関節）
12	上肢の構造と運動　（手指）
13	上肢の神経と筋支配
14	上肢の運動まとめ
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中村隆一・齋藤宏・長崎宏　著「基礎運動学」	筆記試験．60 点以上合格．

授業概要			
運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士は理論的に身体の運動を理解しなければならない．この講義では身体運動はどのように行われているのか，ということも含め学んでいく．

[授業全体の内容の概要]

作業療法士が運動療法を展開するための基礎知識として，運動学全般の基本を理解し身体運動を理論的に学習する．また，必要となる生理学的な知識についても確認する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

骨，筋，神経，関節の構造，タイプを理解する．下肢・顔面・体幹の運動の，循環・呼吸のメカニズムを理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	前期復習
2	下肢の構造と運動　（股関節）
3	下肢の構造と運動　（股関節）
4	下肢の構造と運動　（股関節）
5	下肢の構造と運動　（膝関節）
6	下肢の構造と運動　（足関節）
7	下肢の神経と筋支配
8	下肢の運動　まとめ
9	顔面・体幹（頭部・頸部）の構造と運動
10	体幹の構造と運動
11	運動発達
12	循環・呼吸器
13	栄養とエネルギー代謝
14	運動・動作分析
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
中村隆一・齋藤宏・長崎宏　著「基礎運動学」	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
運動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

運動学実習では，人体の仕組みと運動を解剖学・運動学・生理学の基本として理解する．運動・動作課題を目で見て確かめ，理解を深めつつ，レポート課題の記載方法について学ぶ．

[授業全体の内容の概要]

人体の仕組みと運動を分析する

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

運動の位置づけができる

レポートの記載方法が理解できる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	重心とは
3	重心動揺
4	重心動揺　（実験１：重心動揺の要因）
5	実験１発表・レポート　　歩行とは
6	歩行分析
7	歩行分析　（関節と筋活動）
8	歩行分析　（実験２：１０m歩行）
9	実験２発表・レポート　　異常歩行（跛行）とは
10	異常歩行（跛行）調査
11	異常歩行（跛行）発表・レポート提出
12	マイオモーションによる歩行分析・異常歩行分析
13	運動学習とは
14	運動学習（実験３：運動学習効果）
15	実験３発表・レポート提出　　まとめ

[使用テキスト・参考文献]

カラー版　カパンジー機能解剖学全３巻　原著第６版　医歯薬出版

基礎運動学　第６版　医歯薬出版

[単位認定の方法及び基準]

レポート課題、筆記試験で60点以上で合格　レポート課題３割

授業概要			
人間発達学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

人間発達の心理的な部分を中心に，胎生期から老人期に至るまでの生涯にわたっての発達段階ごとの特徴・課題を中心に，人間理解のための一助とする．

[授業全体の内容の概要]

人間を時系列で見たとき，その時期特有の問題点に焦点をあて，できるだけわかりやすい事例を用いながら理解を深める

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

臨床で出会う対象者を発達段階をふまえて理解できるようにする．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	発達とは。発達理論
2	胎生期の発達
3	新生児期の発達
4	乳児期の発達①
5	乳児期の発達②
6	幼児期の発達①
7	幼児期の発達②
8	幼児期までに出現する発達上の問題
9	発達検査
10	児童期、青年期の発達
11	児童期から思春期の心の問題
12	成人期の発達
13	老年期の発達
14	老年期の問題
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
大城昌平編集「リハビリテーションのための人間発達学」第2版	定期試験70点+平常点（レポート提出）30点　60点以上合格

授業概要			
臨床心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

医療従事者として，現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに，対人援助職として対象者を理解するために，いかに関わればいいかを考える機会とする．

[授業全体の内容の概要]

対人援助においては，対象者となる人間の理解が必要である．臨床心理学では，特に心理面での人間理解の方法としての人格理論・心理アセスメントについて学ぶ．また，心の問題を解決する方法しての心理療法の様々な技法についても理解を深める．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

人格理論，心理アセスメント，心理療法の用語が具体的に理解できている．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	臨床心理学とは何か
2	フロイトの精神分析理論①
3	フロイトの精神分析理論②
4	ユングの分析心理学
5	神経症
6	自己愛理論　人格理論
7	発達障害
8	心理アセスメント①
9	心理アセスメント②
10	心理アセスメント③
11	心理療法①心理療法の基本的態度，心理療法の技法
12	心理療法②言語的接近法
13	心理療法③非言語的接近法
14	心理療法④行動療法等
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著　「心とかかわる臨床心理　基礎・実際・方法」第3版 ナカニシヤ出版	定期試験80点+平常点（レポート提出）20点定期試験60点以上合格

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	堀米 秀夫	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5回	10	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

[授業全体の内容の概要]

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	内科学総論
2	症候学
3	消化器総論，上部消化管
4	下部消化管，胆，膵
5	肝，胃ろう

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準理学療法学・作業療法学　内科学　第3版	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	10	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

[授業全体の内容の概要]

内科学系を学ぶにあたって大切なことは「概念」を理解することです．概念を理解するためにはその元となる基本的な知識（解剖学などの基礎医学的知識）が必要となります．1年生の段階では内科学と並行して基礎医学的な知識を習得するように心がけてください．　本講義では内科学の知識習得を目的として，指定テキストに沿って講義を進めます．また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」などを中心に学びます．さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます．質問等は講義中または講義終了後に随時発言してください。

また折に触れて、皆さんが成長するための「社会人としての心構え」を助言していきます。本講義を通じて共に学び成長していきましょう。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

その他　①在学中に「一次救命講習（CPR と AED)」の受講を推奨します。　②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します．　③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	第4章（循環器疾患・総論）
2	第4章（循環器疾患・各論）
3	第5章（呼吸器疾患・総論）
4	第5章（呼吸器疾患・各論）
5	第9章（代謝性疾患）
6	第10章（内分泌疾患疾患）
7	第11章（腎泌尿器疾患）
8	試験解説および総括

[使用テキスト・参考文献]

大成浄志「標準理学療法学・作業療法学　内科学　第3版」　医学書院　必要時に資料配布や文献紹介を加えます

その他

①在学中に「一次救命講習（CPR と AED)」の受講を推奨します．

②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します．

③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します．

[単位認定の方法及び基準]

期末科目試験をもとに総合的に評価します。　※事前の予習状況や講義中の積極性を総合評価に加味します。

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小松 弘和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5回	10	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する．

白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する．

血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する．

鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する．

造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する．

[授業全体の内容の概要]

造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫
3	出血性疾患と血栓性疾患
4	貧血
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩

[使用テキスト・参考文献]

使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学　内科学　第2版　医学書院

参考文献：1．わかりやすい内科学　文光堂　2．老年医学テキスト　メディカルビュー社

[単位認定の方法及び基準]

定期試験 60 点以上合格

授業概要			
整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	斉木　寛・吉野　孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

整形外科学は，骨，関節，筋肉，脊髄，末梢神経―運動器―の疾患とその治療を扱う，リハビリテーション学とは関連の深い学問です．整形外科の主要な疾患の症状，診断，治療を中心の講義します

[授業全体の内容の概要]

整形外科基礎，画像診断，関節リウマチ，上下肢の関節疾患，腫瘍，感染症などについて講義を行う．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

整形外科基礎および各疾患の病態，治療法について理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	代謝・内分泌疾患（骨粗鬆症）
2	変形性疾患，神経病性関節症
3	炎症性疾患（リウマチの 1 部まで）
4	リウマチ，感染性疾患
5	炎症性疾患，先天性疾患の一部
6	先天性疾患，四肢循環障害
7	壊死性疾患，腫瘍（特徴）
8	骨・軟部腫瘍
9	神経・筋疾患
10	脊椎疾患
11	脊椎疾患，側弯症
12	変形性脊椎疾患，廃用症候群（1 部）
13	廃用症候群など
14	炎症性疾患，腫瘍，神経疾患など
15	整形外科全般（まとめ）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」　医学書院 参考文献：医学書院　標準整形外科学	筆記試験．60 点以上合格．

授業概要			
整形外科学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	斉木　寛・吉野　孝弘	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

整形外科学は，骨，関節，筋肉，脊髄，末梢神経ー運動器ーの疾患とその治療を扱う，リハビリテーション学とは関連の深い学問です．整形外科の主要な疾患の症状，診断，治療を中心の講義します．

[授業全体の内容の概要]

整形外科の基礎知識と関連事項

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

上記目的・ねらいの達成

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	骨折一般
2	各論（脊椎骨骨折，骨盤骨折など）
3	骨折（上肢一般）
4	下肢骨折一般
5	脊髄損傷
6	捻挫，脱臼，神経損傷（1部）
7	末梢神経の外傷性疾患
8	腱・靭帯損傷，スポーツ障害
9	腱・靭帯損傷，スポーツ障害
10	スポーツ障害，各論
11	スポーツ障害，熱傷
12	切断（原因，切断の実際）
13	義手，義足（種類，構造）
14	整形外科後期全般まとめ（外傷性疾患，脊椎疾患など）
15	外傷一般など

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準理学療法学・作業療法学「整形外科学」　医学書院 参考文献：医学書院　標準整形外科学	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
神経内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

本講義では神経内科学の知識習得を目的として，指定テキストに沿って講義を進めます．また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます．さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます．

[授業全体の内容の概要]

本講義では神経内科学の知識習得を目的として，指定テキストに沿って講義を進めます．また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます．さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

①在学中に「一次救命講習（CPR と AED)」の受講を推奨します．
②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します．
③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	第1・2章
2	第3・4章
3	第5・6章
4	第7・8・9章
5	第10･24章
6	第11～16章
7	第7～19章
8	第20・23章
9	第21章
10	第25・26章
11	第27～29章
12	第30～32章
13	第33～35章
14	補足事項・総まとめ
15	試験解説および総括

[使用テキスト・参考文献]

川平知美（編）『標準理学療法学・作業療法学　神経内科学　　第4版』医学書院

資料配布や文献紹介を随時加えます。

[単位認定の方法及び基準]

平常点および期末科目試験を総合的に評価し，必要時に再試験，課題等．

※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします

授業概要			
脳神経外科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山田 宣夫	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

神経の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、賞状、徴候、診断、治療を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

中枢神経系、末梢神経系の障害は理学療法士、作業療法士にとり対象疾患として整形外科疾患と共に多くを占めるものである。これらの疾患を理解することは治療に必須のものである。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

神経障害の広範な知識により、国家試験の関連問題を正解に導く力をつけること。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	中枢神経系の解剖と機能
2	神経学的検査法
3	神経症候学（1）意識覚醒レベル
4	神経症候学（2）錐体路徴候
5	脳血管障害
6	頭部外傷、血腫
7	運動ニューロン障害復習
8	中間テスト
9	神経症候学（3）錐体外路徴候
10	脱髄・変性疾患
11	感染・炎症性疾患（脳炎、髄膜炎）
12	末梢神経・筋の障害
13	脳腫瘍
14	認知症
15	試験解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準脳神経外科学／医学書院	中間テスト　50点、期末テスト　50点、　60点以上合格

授業概要			
精神医学Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士に必要な精神医学的知識の習得

[授業全体の内容の概要]

作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と
現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法士に必要な精神医学的知識の習得

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	精神症状学1
2	精神症状学2
3	統合失調症・妄想性障害1
4	統合失調症・妄想性障害2
5	統合失調症・妄想性障害3
6	気分（感情）障害1
7	気分（感情）障害2
8	てんかん1
9	てんかん2
10	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害1
11	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害2
12	国試テスト1
13	国試テスト2
14	国試テスト3
15	前期まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
TEXT 精神医学第4版　南山堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
精神医学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 亮	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]
作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と
現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する

[授業全体の内容の概要]
講義

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
作業療法士に必要な精神医学的知識の習得

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	パーソナリティ障害
2	薬物・アルコール依存1
3	薬物・アルコール依存2
4	器質性・症状性精神障害
5	老年期精神障害
6	児童・青年期の精神障害1
7	児童・青年期の精神障害2
8	児童・青年期の精神障害3
9	摂食障害・法と精神医学
10	精神科治療総論1
11	精神科治療総論2
12	精神科治療総論3
13	国試テスト対策1
14	国試テスト対策2
15	後期まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
TEXT 精神医学　第4版　南山堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
小児科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

理学・作業療法を行う上で，必要な小児科学の知識を学び，現場での総合的な判断力を養う．

[授業全体の内容の概要]

小児科の基礎知識と関連事項

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

上記，目的・ねらいの達成

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	小児科学総論①
2	小児科学総論②
3	小児科学総論③＋診断と治療
4	新生児・未熟児総論
5	先天異常と遺伝病①
6	先天異常と遺伝病②
7	神経・筋・骨系疾患①
8	神経・筋・骨系疾患②
9	循環器疾患
10	呼吸気疾患
11	感染症・消化器疾患①
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）
15	試験解説，講義の総括・補足

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準理学療法学・作業療法学　小児科学/医学書院	定期試験60点以上合格．

授業概要			
老年学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]
老年学の概念を学ぶ

[授業全体の内容の概要]
老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	序説～老化，加齢変化①生理機能
2	加齢変化②運動機能，精神心理面　高齢者へのアプローチ／人口動態
3	高齢者の機能評価①
4	高齢者の機能評価②
5	退院支援，老年症候群各論①
6	老年症候群②
7	循環器疾患
8	呼吸器疾患
9	消化器疾患
10	骨・運動器疾患
11	神経疾患，精神疾患
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準理学療法・作業療法　老年学／医学書院	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
地域医療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	恒川 幸司	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

地域における医療・看護・介護の現状を理解し、Common disease（臨床上良く見られる疾患）に対する知識を得て、リハビリテーションを始めとした予防法・治療法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

PBL（problem based learning）と呼ばれる方法で，グループでの討論を基に勉強して，それぞれの疾患を持った患者さんの問題を自分たちで解決していく．講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

- 将来、地域でのリハビリテーションに必要となる疾病に関しての知識が習得できる。
- 自分自身で勉強して患者さんの問題を解決することができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	地域医療とは？　インフルエンザ
2	生活習慣病
3	心疾患
4	呼吸器疾患
5	癌
6	認知症
7	脳血管障害・多職種連携
8	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
特になし．毎回講義資料配布	筆記試験、学習態度の合計 60 点以上合格． 筆記試験 95%　学習態度 5%

授業概要			
リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	矢野 義人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

[授業全体の内容の概要]

リハビリテーションを医師の立場からわかりやすく説明・講義する．臨床の各論としてリハプログラム，脳卒中や脊髄損傷，脳性麻痺などの中枢疾患から末梢神経損傷や切断，心疾患，呼吸器疾患，癌までの具体的な疾患に関して，評価から治療・訓練を特徴的疾患と共に説明・講義する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	リハビリの概念，ICF，相互作用モデル
2	廃用症候群
3	言語機能障害、排泄機能障害、嚥下機能障害
4	脳血管障害①　脳梗塞、脳出血
5	脳血管障害②　くも膜下出血　テスト①
6	パーキンソン病、多発性硬化症
7	ALS、筋ジストロフィー
8	変形性関節症、関節リュウマチ
9	ギランバレー症候群　テスト②
10	脊髄損傷　高位診断、病態、治療
11	脳性麻痺、二分脊椎
12	認知症
13	熱傷
14	ADL、IADL、ノーマライゼーション
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準リハビリテーション医学　参考文献：リハビリテーション医学（PT・OTビジュアルテキスト専門基礎）	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
画像診断学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	恒川 幸司	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

リハビリテーション医学においても、病勢や治療効果の判定をするために、画像診断が重要となってきている。さらに、近年では作業療法士国家試験でも画像から状況を問う問題が多数出題されている。そこで、各種画像診断検査の特徴や原理を理解し、画像による基本的な診断方法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

グループワークおよび講義を行う。与えられた画像についてグループワークでの議論をもとに勉強し、それぞれの検査法における特徴・原理・診断法を学ぶ。講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

- 各種画像診断法の原理と特徴が説明できる。
- 解剖学の正常像を踏まえて、画像のロケーションを付ける事が出来る。
- 各疾患の典型的な画像や所見から、診断を導き出すことができる。
- グループワークによって分からない部分を挙げ、自分自身で勉強して解決することができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	画像診断学総論
2	単純X線写真
3	X線CT
4	その他X線を用いた診断法・核医学検査
5	MRI
6	内視鏡検査
7	超音波検査
8	復習・演習
9	整形外科①
10	整形外科②
11	神経系①
12	神経系②
13	循環器・呼吸器系
14	消化器系・その他
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
適宜配布資料 リハビリテーションのための画像の見方　画像診断学　メジカルビュー　　参考文献：リハに役立つ脳画像　メジカルビュー	筆記試験と学習態度の合計　60点以上で合格 筆記試験95%　学習態度5%

授業概要			
薬理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

[授業全体の内容の概要]

本講義では理学療法士や作業療法士において必要な薬理学の知識習得を目的として、指定テキストの内容に準じて講義を進めます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても助言等を加えながら随時補足していきます。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

その他①在学中に「一次救命講習（CPR と AED)」の受講を推奨します。②読書の励行、図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	薬理学総論（薬理学の概要）
2	薬理学総論（薬の体内動態と薬理作用
3	薬理学総論（薬物療法の基礎）
4	臨床薬理学（神経疾患・神経疾患の薬物療法）
5	臨床薬理学（循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法）
6	臨床薬理学（疼痛の制御・注意すべき薬物）
7	重要事項の確認（要点 check）
8	科目試験解説および総括

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
内山，他「薬理学・臨床薬理学 第1版」医歯薬出版　資料配布や文献紹介を随時加えます。	平常点及び期末科目試験を総合的に評価し、必要時に再試験、課題等。※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします。

授業概要			
栄養学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

人にとって不可欠な「食べる」という行為を、栄養という面からとらえることで健康と職に対する理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

栄養素の構造と機能を理解するために化学的な基礎知識と消化と吸収を理解するために人体の構造と機能を解剖学的・生理学的に学習する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

健康の維持及び疾病の予防と栄養の関連を理解し説明できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	人間栄養学
2	栄養素の種類とはたらき
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝
4	栄養ケア・マネジメント
5	栄養状態の評価・判定
6	ライフステージと栄養
7	臨床栄養
8	健康づくりと食生活

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能③　栄養学」　医学書院	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
健康支援学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬　達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

救急救命や予防領域に関する基礎的知識の習得を目的とする

[授業全体の内容の概要]

救急救命や予防領域の基礎知識と関連事項

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

上記目的・ねらいの達成

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	救急救命に関する概論
2	救急救命　講義①
3	救急救命　講義②
4	救急救命　演習①
5	救急救命　演習②
6	予防領域の概論
7	予防領域　講義①
8	予防領域　講義②
9	予防領域　講義③
10	予防領域　グループワーク①
11	予防領域　グループワーク②
12	予防領域　グループワーク③
13	予防領域　グループ発表①
14	予防領域　グループ発表②
15	予防領域　グループ発表③

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

多職種連携の重要性を理解し、リーム医療の一端を担う専門職としての自覚を持つこと。また、リハビリテーションの概念）自立支援・就労支援）を知り、地域医療・地域法覚ケアシステムなどに対応するための基盤づくりを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

講義形式にて、リハビリテーションの概念から臨床までの基礎知識を学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1. リハビリテーションの概念が説明できる。2．健康・疾病・障害と「国際生活機能分類（ICF)]について理解できる。3．地域包括ケアシステムについて理解できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	リハビリテーションの概念・理念・定義
2	健康と障害の概念と分類（ICF)
3	障害の心理、心理的・社会的問題と受容
4	ADL,QOL の概念と評価法
5	リハビリテーション過程
6	リハビリテーションの諸段階（職業リハビリテーション）
7	イリョウとリハビリテーション専門職種と役割
8	医療とリハビリテーション専門職種と役割
9	チームアプローチ
10	ADL,QOL の概念と評価法
11	地域リハビリテーションと社会資源，在宅ケア
12	高齢者・健康対策と少子化対策
13	医療・福祉制度
14	医療法・福祉関係法規
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
上好昭孝・土肥宣之：医学生のための手引書 リハビリテーション概論	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

理学療法および理学療法士について学習する.

[授業全体の内容の概要]

理学療法の定義・理学療法士の業務内容について講義する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

理学療法・理学療法士について理解することができる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	理学療法の定義と理学療法士について
2	理学療法の実際Ⅰ（筋力増強訓練）
3	理学療法の実際Ⅱ（関節化動悸訓練）
4	理学療法の実際Ⅲ（トランスファー）
5	理学療法の実際Ⅳ（心臓・呼吸器）
6	理学療法の実際Ⅴ（内部疾患）
7	理学療法の実際Ⅵ（物理療法）
8	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
テキストは使用しない.	定期試験 100 点 60 点以上合格

授業概要			
言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野津 清	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関しての知識，技術の習得

[授業全体の内容の概要]

近年，脳卒中による言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害を有する方々に対するリハビリテーションの重要性が増しています．そのような障害について，医療従事者として知っておかなければならない様々な知識や技術をわかりやすく講義します．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関しての知識，技術が習得できる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	言語聴覚障害総論
2	高次脳機能障害
3	失語症
4	構音障害
5	言語発達障害（脳性麻痺）・吃音
6	嚥下障害1
7	嚥下障害2
8	職業"作業療法士"として生きる

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
使用テキスト：なし（A4ファイルをご用意ください） 参考文献：「言語聴覚療法　臨床マニュアル」　協同医書出版	定期試験60点以上合格

授業概要			
保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮部 浩二	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し，チーム医療における役割の理解を目的とする．

[授業全体の内容の概要]

まずは社会福祉・社会保障・社会保険の違いについてしっかり理解し，わが国における具体的な制度についての理解を深める．また身近な社会資源から世界の社会保障に至るまで実例を示しながら，グループワークも交えて相互理解を図る．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

利用者の自己実現に向けた保健・医療・福祉の連携について理解を深めることができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション　なぜ福祉を学ぶか
2	社会福祉の歴史①
3	社会福祉の歴史②
4	社会保障の概念
5	社会保障の定義・小テスト
6	わが国の社会保険制度①
7	わが国の社会保険制度②　世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅰ）
8	世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅱ）
9	医療保険制度①
10	医療保険制度②
11	介護保険について①
12	介護保険について②（地域包括ケアシステムを含む）
13	障害者保険福祉（自立支援、就労支援を含む）
14	総復習
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
参考文献：新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 ❸ 「社会福祉」メヂカルフレンド社	筆記試験 60 点以上合格.

授業概要			
作業療法概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。

[授業全体の内容の概要]

作業療法を学ぶために作業療法の成り立ちや各領域における役割を講義や演習を通して理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法を理解することができ、作業療法を考え続ける学習意欲を身につけることができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション　作業療法とは①
2	作業療法とは②
3	作業とは
4	作業療法士とは
5	作業療法士が関わる領域
6	作業療法の治療手段
7	作業療法の歴史①
8	作業療法の歴史②
9	分野別作業療法①（身体）
10	分野別作業療法②（精神）
11	分野別作業療法③（発達）
12	分野別作業療法（老年）
13	作業療法部門の管理運営
14	事例検討
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法学全書　改訂第3版　第1巻　作業療法概論	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
基礎作業学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・小泉 恵	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

治療手段としての作業を理解する.

[授業全体の内容の概要]

作業とは何かを理解し，作業分析を通じ，作業の特性を理解する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業・作業活動の治療への応用について説明できる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	作業分析演習①
2	作業分析演習②
3	作業分析演習③
4	作業分析演習④
5	作業療法と作業
6	作業・作業活動とは
7	ひとと作業・作業活動
8	道具としての作業・作業活動
9	作業・作業活動と生活機能
10	作業分析とは
11	一般的分析
12	限定的分析
13	作業・作業活動を用いる
14	集団と作業
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
山根寛：ひとと作業・作業活動. 三輪書店 「さをり織り　好きに好きに織る」　ぶどう社	筆記試験. 60点以上合格.

授業概要			
基礎作業学実習Ⅰ（革細工）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森下 章生	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法のアクティビティの一つである革細工について，その作業技術を理解し習得する．対象者に対し適切な作業を選択できるように学習する．作業に必要な用具，材料についても学び，活動がスムーズに行えるようにしたい．

[授業全体の内容の概要]

革細工での作品作りを行い，作業活動の一つである「革細工」の方法，道具などを知る．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

革細工で作品を作り，そのために必要な道具やその工程を理解することができる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	作業療法における革細工の概要
2	革細工に必要な用具，材料について名称と使用法を理解する
3	革細工技法を習得する．（スタンピング法）革のしおり，キーホルダー，ブローチの製作を通して．
4	革の染色法を習得する．（色差し染め，拭き染め）
5	革細工技法を習得する．（カービング法）三つ折りキーケースの製作を通して．
6	革の染色法（アンティック染め）を習得する．
7	仕立ての学習（金具のつけ方など）を習得する．
8	カードケースの製作を通して，穴あけ，かがり方を習得する．
9	ブレスレットの製作（習得技術の応用）
10	革の立体造形（花ブローチ，動物マスコットの製作）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「決定版　革で遊ぶ革細工入門・革のアクセサリー・革でつくる動物」美術出版社	筆記試験　60点以上合格　　作品提出

授業概要			
基礎作業学実習Ⅰ（陶芸）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	滝川 幸志	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業の一つの特性を持つ陶芸作業を体験することで，作業学を学ぶ．

[授業全体の内容の概要]

実習

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

陶芸の作業手順通りに授業を進め，最終的に作品として焼成するまで行うことにより，基礎的な陶芸の知識と技術を得るとともに，作品を完成させる達成感を得ることも目標とする．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	土練り・手びねり
2	ひも作り・ロクロ
3	仕上げ
4	たたら作り
5	素焼き窯詰め
6	陶芸概論
7	下絵付け，釉掛け
8	本焼き窯づめ，本焼き
9	本焼き窯だし
10	七宝
11	
12	
13	
14	
15	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	筆記試験．60点以上合格．作品提出

授業概要			
作業療法研究法	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法という専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を特に量的研究と質的研究の両者から学びます．すでに発表された研究論文の読み方など研究の実際を学習する．

[授業全体の内容の概要]

作業療法を行っていくうえでは，根拠をしめしたうえで実施していくことが必要となってくる．その根拠を見出すうえで必要な研究の成り立ちやその方法について教授する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

卒業研究の実施に必要な知識を学ぶ，研究が作業療法の発展に必要なことを理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	なぜ，作業療法士に研究は必要なのか
2	研究にかかわる基礎知識
3	研究とは，研究の心構え
4	研究とは，研究の心構え
5	研究の流れ，目的
6	研究計画書
7	倫理の一般原則，インフォームドコンセント
8	研究の類型
9	研究の進め方
10	文献レビューⅠ
11	文献レビューⅡ
12	研究論文の発表と手続き，事例研究Ⅰ
13	事例研究Ⅱ
14	事例研究Ⅲ，まとめ総復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法士のための研究法入門　三輪書店	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法管理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

対象者に質の高い作業療法が提供できるように記録や設備・物品などの環境管理，リスク管理について学ぶ．また，組織の一員としてのマネジメント能力を養う．

[授業全体の内容の概要]

作業療法における管理運営，職業倫理について学ぶ．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

作業療法における環境資源，医療安全についてのマネジメントを理解する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	作業療法とマネジメント
2	組織の成り立ちとマネジメント
3	情報のマネジメント
4	医療サービスのマネジメント
5	医療安全のマネジメント
6	作業療法業務のマネジメント①
7	作業療法業務のマネジメント②
8	作業療法業務のマネジメント　実践からの学び①
9	作業療法業務のマネジメント　実践からの学び②
10	作業療法士の役割と職域
11	作業療法士の職業倫理
12	作業療法をとりまく諸制度
13	作業療法臨床実習の理解と管理体制
14	作業療法士のキャリア開発
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「作業療法管理学入門」　医歯薬出版	

授業概要			
作業療法評価学Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

具体的な評価方法を学ぶ前に，評価の意義を理解することで必要な評価項目を選択し，正確に実行することの大切さを知る．現場で必要な評価が行えるようにする．

[授業全体の内容の概要]

評価の意義・目的・手順・種類等，評価の基礎（総論）を学ぶ．バイタルチェックや面接法・ROM（上肢まで）は実技を交えて学ぶ．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

・評価の意義・目的・手順・種類を理解する　・バイタルチェック・面接・ROM-Tを行えるようになる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション・評価とは
2	評価過程・治療計画
3	評価の統合と解釈
4	医療面接の意義・目的
5	医療面接
6	医療面接のまとめ
7	意識の評価・バイタルチェック
8	血圧測定・呼吸・バイタルチェックのまとめ
9	形態計測
10	ＲＯＭ測定とは（意義・目的）
11	ＲＯＭ測定（方法）：肩甲帯
12	ＲＯＭ測定（方法）：肩甲帯
13	ＲＯＭ測定（方法）：肩関節
14	ＲＯＭ測定（方法）：肘・前腕・手関節
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ることで，臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる．

[授業全体の内容の概要]

作業療法を行う上では，面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない．本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べることができる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	筋力検査（種類・意義・目的・方法）
2	筋力検査のまとめ，知覚検査（意義・目的・方法）
3	知覚検査のまとめ
4	反射検査
5	協調性検査
6	姿勢反射検査
7	筋緊張検査
8	筋緊張検査
9	ＲＯＭ・ＭＭＴ・反射検査の復習
10	片麻痺機能検査（脳血管障害の評価）・脳画像
11	脳神経検査
12	画像（脳画像以外）
13	摂食・嚥下機能検査
14	上肢機能検査，評価まとめ
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院　　ベッドサイドの神経の診かた　南山堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法評価学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ることで，臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる．

[授業全体の内容の概要]

作業療法を行う上では，面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない．本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べることができる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	姿勢分析
2	動作分析
3	動作分析
4	動作分析
5	歩行分析
6	歩行分析
7	症例検討（ＣＶＡ）
8	症例検討（ＣＶＡ）
9	症例検討（ＣＶＡ）
10	症例検討（高齢者）
11	症例検討（高齢者）
12	症例検討（高齢者）
13	症例検討（その他疾患）
14	総復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院　　ベッドサイドの神経の診かた　南山堂	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法評価学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

身体障害領域で主に必要な評価を身に付ける，安全・正確かつ効率的に行えるようになる．

[授業全体の内容の概要]

主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について，安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと，学生同士で交代しながら評価を行う．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	ＲＯＭ測定：手指
3	ＲＯＭ測定：上肢おさらい
4	ＲＯＭ測定：股関節
5	ＲＯＭ測定：膝・足関節
6	ＲＯＭ測定：体幹・頸部
7	腱反射
8	腱反射
9	表在反射・病的反射
10	ＭＭＴ：肩・肩甲帯
11	ＭＭＴ：肘・前腕
12	ＭＭＴ：肘・前腕
13	ＭＭＴ：手・手指
14	ＭＭＴ：手・手指
15	ＭＭＴ：上肢まとめ

[使用テキスト・参考文献]

標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院　　新・

徒手筋力検査法　原著第 9 版　共同医書

PT・OT のための臨床技能と OSCE　金原出版株式会社

[単位認定の方法及び基準]

実技試験．60 点以上合格．

授業概要			
作業療法評価学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

身体障害領域で主に必要な評価を身に付ける，安全・正確かつ効率的に行えるようになる．

[授業全体の内容の概要]

主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について，安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと，学生同士で交代しながら評価を行う．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	MMT：股
2	MMT：股
3	MMT：膝・足
4	MMT：膝・足
5	MMT：下肢まとめ
6	脳神経検査
7	脳神経検査
8	片麻痺機能検査
9	片麻痺機能検査
10	片麻痺機能検査
11	知覚検査
12	知覚検査
13	総復習
14	総復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院　　新・ 徒手筋力検査法　原著第9版　共同医書	実技試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法治療学Ⅰ（整形・その他疾患）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘・安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

この講義では，整形外科疾患である，リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷，および熱傷・パーキンソン病・ALS・脊髄小脳変性症などを取り上げて，作業療法士に必要な治療について学習する．

[授業全体の内容の概要]

関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを学習する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷等の治療学を学習する．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	関節リウマチ
3	関節リウマチ
4	脊髄損傷
5	脊髄損傷
6	腕神経叢麻痺・骨折
7	腕神経叢麻痺・骨折
8	熱傷・腱断裂
9	パーキンソン病
10	脊髄小脳変性症
11	喀痰吸引
12	ALS・ギランバレー症候群
13	多発性硬化症，その他疾患
14	総復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法学全書　改定第3版　第4巻　作業治療学1 身体障害	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法治療学Ⅱ（高齢者）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

高齢者に対する作業療法を実施するにあたって必要な視点や知識を学ぶ。老いに対する認識から認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について考える。対象者の生活像から評価計画、プログラム立案をすることができる

[授業全体の内容の概要]

講義・ディスカッション・演習を通し高齢者の特徴や背景を捉える。事例に対する評価計画、プログラム立案のため作業療法評価技術、治療技術を学ぶ

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

高齢者の老いや生活背景を理解することができる。
認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について理解することができる。
高齢者の作業療法について深めることができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	高齢化の進展、高齢社会の問題
2	老年期の特徴、生活課題
3	老化について（生活機能遂行要素）
4	老年期の課題
5	高齢者の作業療法における医学知識①
6	高齢者の作業療法における医学知識②
7	高齢者の作業療法に必要な心理・社会学的知識
8	高齢者の作業療法の流れ
9	高齢者の作業療法評価①
10	高齢者の作業療法評価②
11	高齢者の作業療法計画立案①
12	高齢者の作業療法計画立案②
13	高齢者の作業療法計画立案④
14	高齢者の作業療法計画立案⑤
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
山田　孝　他：クリニカル作業療法シリーズ　高齢期領域の作業療法　第2版　プログラム立案のポイント	筆記試験　60点以上合格

授業概要			
作業療法治療学Ⅲ（精神）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

精神科作業療法の役割と評価・アプローチ法を理解する。

[授業全体の内容の概要]

精神障害に対する医療の歴史，障害の捉え方，作業療法が果たす役割，治療構造，作業療法の流れを学習する．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1．生活障害について説明できる。2．認知機能障害について説明できる。3．アプローチ法が理解できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割
2	作業療法実践の基本的視点Ⅰ
3	作業療法実践の基本的視点Ⅱ
4	急性期作業療法の考え方と実際
5	退院支援の考え方と実際
6	地域生活支援のあり方と実際
7	就労支援
8	薬物療法
9	認知行動療法Ⅰ
10	認知行動療法Ⅱ
11	家族療法
12	評価
13	評価
14	評価
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
香山　明美・他：生活を支援する精神障害作業療法　急性期から地域実践まで　第2版.医歯薬出版	筆記試験．60点以上合格.

授業概要			
作業療法治療学Ⅳ（中枢・高次脳）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	安部 美和・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

・脳血管障害および頭部外傷の作業療法を学ぶ．・ 高次脳機能障害の基礎知識を深める．

・ 各症状の特徴を捉える．

・ 評価，リハビリテーション介入～支援方法までの流れを把握する．

[授業全体の内容の概要]

脳血管障害および高次脳機能障害の基礎知識を深めることを目的とし，その流れを考えながら，症状理解をしていく．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

脳血管障害・高次脳機能障害の評価・リハビリテーションの流れが把握できる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	脳血管疾患について
2	脳血管障害（症状・評価項目）
3	脳血管障害（中枢性麻痺の特徴・ファシリテーションの考え方）
4	脳血管障害（急性期・回復期・維持期のリハビリテーション）
5	頭部外傷
6	高次脳機能障害とは
7	失行・失認
8	注意障害
9	記憶障害・構成能力
10	症例検討
11	症例検討
12	症例検討
13	症例検討
14	症例検討
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法学全書　改定第3版　第4巻　作業治療学1 身体障害　　脳卒中　最前線　第4版　　教科書：石 合純夫著　高次脳機能障害学　医歯薬出版	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法治療学Ⅴ（発達）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小西　由夏	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

発達に配慮が必要な子どもたちに対して作業療法はどんな視点からアプローチできるか知ってもらう。

[授業全体の内容の概要]

講義と実技を取り入れながら具体的に理解してもらえるように授業を工夫して予定です。また、実際の現場での話や映像もお伝えして、臨床のイメージを高めてもらえるようにしていきます。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

臨床的思考過程を学ぶための基礎知識を身につける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	概論・備考
2	正常発達復習
3	評価復習（実技）
4	嚥下摂食（実技）
5	広汎性発達障害
6	ADHD・LD
7	広汎性発達障害・ADHD・LD　演習
8	脳性麻痺
9	脳性麻痺　演習
10	重症心身障害
11	MR・ダウン症
12	筋ジストロフィー
13	小児整形外科疾患
14	家族支援　等
15	総括

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「イラストでわかる発達障害の作業療法」　医歯薬出版	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法治療学VI（身体）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	吉野 孝弘・安部 美和	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

前期で学習したCVA・脊髄損傷・リウマチ・末梢神経損傷の疾患と，作業療法士に必要な評価・治療を基礎に，ADL・治療技術を演習で習得する．また，症例検討をとおして作業療法の全体の流れを把握する．

[授業全体の内容の概要]

中枢神経疾患・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを考案し、作業療法の実践を行う．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

中枢神経疾患・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを考案し、作業療法の実践を行う．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
3	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
4	症例発表
5	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
6	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
7	症例発表
8	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
9	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
10	症例発表
11	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
12	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺，グループワーク
13	症例発表
14	復習
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
配布プリント	レポート（60点：A60点、B50点、C40点、D30点の4段階。提出期限の厳守、内容などにより判断）、発表・取り組み姿勢（10点）、筆記試験（30点）.

授業概要			
作業療法治療学Ⅶ（高齢者）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士として高齢者に対しての必要な作業療法実践を講義、演習、事例を通して学習する。後期では認知症にフォーカスし、高齢者の生活像を把握する生活評価や身体機能評価、認知機能評価、心理機能評価を確認し、事例を通して全体像を把握できることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

認知症における概念の理解と、作業療法の訓練や評価、薬物などについて知識を深める。講義・演習・事例検討を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

認知症高齢者に対する作業療法の知識や視点を習得し、作業療法評価や治療計画が立案できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション　認知症の作業療法
2	認知症発症と関連因子
3	認知症の定義と分類・症状
4	認知症の人の評価に向けて
5	薬物療法
6	非薬物療法
7	認知症の方とのコミュニケーション
8	認知症をどう理解するか
9	評価の実際
10	評価の実際②
11	事例検討①
12	事例検討②
13	事例検討③
14	事例検討④
15	総復習

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
認知症の作業療法-ソーシャルインクルージョンを目指して-第2版　小川敬之　武田徳則　編　医歯薬出版株式会社	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
作業療法治療学Ⅷ（精神）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

精神系作業療法に関する技法を体験することによって治療計画の立案の一助とする．疾患・障害特性に応じた作業療法を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

精神系作業療法に関連する技法を体験する．また、講義形式にて疾患・障害特性応じた作業療法を学習する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

疾患・障害特性に応じた作業療法を説明できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	認知行動療法の体験
2	認知行動療法の体験
3	統合失調症の作業療法 I
4	統合失調症の作業療法
5	気分障害の作業療法
6	気分障害の作業療法
7	パーソナリテイ障害の作業療法
8	発達障害の作業療法
9	神経症性障害の作業療法
10	摂食障害の作業療法
11	物質依存性障害の作業療法
12	症例検討
13	症例検討
14	症例検討
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
香山　明美・他：生活を支援する精神障害作業療法　急性期から地域実践まで　第2班.医歯薬出版	筆記試験（60%）レポート（40%）．合算し60点以上合格.

授業概要			
作業療法治療学Ⅸ（高次脳）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	石井 文康	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

【キーワード】高次脳機能障害，言語，行為，認知，記憶

[授業全体の内容の概要]

高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め．症例検討を行う．

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め，症状検討を行った際に，積極的な意見が出せる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	脳機能概論Ⅰ
2	脳機能概論Ⅱ
3	高次脳機能障害学概論Ⅰ
4	高次脳機能障害学概論Ⅱ
5	失語・失行・失認等の臨床像Ⅰ
6	失語・失行・失認等の臨床像Ⅱ
7	記憶障害の臨床像Ⅰ
8	記憶障害の臨床像Ⅱ
9	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅰ
10	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅱ
11	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅲ
12	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅳ
13	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅴ
14	高次脳機能障害のまとめⅠ
15	高次脳機能障害のまとめⅡ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
配布資料　　教科書：石合純夫著　「高次脳機能障害学」　医歯薬出版	レポート課題．60 点以上合格．

授業概要			
義肢装具学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	原 和子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士に必要な義肢・装具の構造や機能の知識と評価法、およびリハビリテーション医療におけるプログラムのたて方を修得する。授業を受けるにあたっては、予習・復習および積極的な発言が期待される。

[授業全体の内容の概要]

解剖学、運動覚、一般医学の知識を統合した義肢装具作業療法を学ぶために、PBL（Problem-based Learning: 問題解決型学習）授業を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

上肢装具、体幹装具、上肢装具，体幹装具，下肢装具，足底装具，靴型装具について提示された症例の適応を口頭で発表できる.

切断と義肢の適応について提示された症例の適応を口頭で発表できる.

義肢装具の基礎知識について理解し，問題を解くことができる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	ガイダンス 装具概論（上肢を中心に）　基礎知識の整理
2	上肢装具、疾患と適応　目的、分類、評価と訓練、PBL 1
3	上肢装具、評価と訓練　PBL1 発表
4	体幹装具、疾患と適応　目的、分類、評価と訓練、PBL2
5	体幹装具、評価と訓練　（評価と訓練、PBL2 発表）
6	下肢装具、疾患と適応　（目的、分類、評価と訓練、PBL3）
7	下肢装具、評価と訓練（評価と訓練、　PBL3 発表）
8	切断と義肢　（障害の分類、義肢の種類と適応）
9	前腕切断の作業療法（　目的、分類、評価と訓練、PBL4）
10	前腕切断の作業療法（　評価と訓練、PBL4 発表）
11	上腕切断の作業療法（　目的、分類、評価と訓練、PBL5）
12	上腕切断の作業療法（　評価と訓練の流れ、PBL5 発表）
13	下肢切断（　目的、分類、PBL6）
14	義足歩行の評価と訓練（　切断の ADL、仕事、スポーツなど PBL6 発表）
15	まとめ（ ポートフォリオ作成）

[使用テキスト・参考文献]

使用テキスト：「作業療法技術学１　義肢装具（作業療法学全書）」古川　宏、協同医書出版社

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献：「装具作業療法学入門」　原　和子　　パシフィックサプライ、１９８７

「手―その機能と解剖（４版）」　上羽康夫　　金芳堂

「義肢装具学」　川村次郎　編　　医学書院

「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院

矢崎　潔：手のスプリントのすべて（３版）、三輪書店

[単位認定の方法及び基準]

筆記試験（５０%）、発表（３０%）、ポートフォリオ（２０%）で評価する。

ポートフォリオとは、自主的に調べた項目、考えたこと、ノート、文献資料など（これらをログと言う）を将来の実習や臨床に役立てるためファイルにまとめたもの。　60 点以上で合格　小テスト、口頭発表のいずれかは適宜課せられる。

授業概要			
義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	原 和子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

義肢装具学で学んだ知識をもとに、主に義肢・装具の作業慮法の評価、プログラムのたて方、訓練の内容について実習する。

義手および手の装具について作業療法として関わる疾患、障害の適応を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

切断と義肢については臨床例のPBL（Problem-based Learning: 問題解決型学習）授業及び見学実習を予定している。手のスプリントは熱可塑性樹脂による作成及び装着経験を通して、スプリントの機能と効果を学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

義肢装具士、理学療法士との関わりを学び、チームワークとしての連携ができる。

上肢切断の義手適応および評価、作業療法プログラムを作り、口頭で発表できる。

簡単な上肢装具を作り、疾患、障害に合わせて適応を考え、作業療法プログラムを立てることができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	ガイダンス 切断の作業療法（　訓練計画の立て方 PBL1　末梢神経麻痺）
2	装具作業療法（PBL 1「末梢神経麻痺」治療計画）型紙作り　安静副子
3	装具作業療法（　　PBL 1「末梢神経麻痺疾患別」型紙作り　安静副子、短対立副子
4	切断と義肢、(PBL2 上腕切断　前腕切断　筋電義手　発表)
5	スプリント実習①（手の安静スプリント作成）ストラップを付ける
6	スプリント実習①（手の安静スプリント作成）ストラップを付ける
7	スプリント実習②（手の対立スプリント作成）
8	スプリント実習②（手の対立スプリント作成）
9	スプリント実習③　（RIC 手関節駆動式把持スプリント）
10	スプリント実習③　（RIC 手関節駆動式把持スプリント）
11	スプリント実習④（その他、手指のスプリント作成実習）ピアノ線を使ったスプリント　スパイダースプリント、ケイプナーコイルスプリントなど
12	スプリント実習④（その他、手指のスプリント作成実習）ピアノ線を使ったスプリント　スパイダースプリント、ケイプナーコイルスプリントなど
13	スプリント実習⑤（ダイナミックスプリント）
14	スプリント実習⑤（ダイナミックスプリント）
15	発表（　レポート・ポートフォリオ提出）

[使用テキスト・参考文献]

使用テキスト：「作業療法技術学 1　義肢装具（作業療法学全書）」古川宏、協同医書出版社

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献：「手のスプリントのすべて」　第３版　矢崎潔　著　　三輪書店

「装具作業療法学入門」　原　和子　　パシフィックサプライ、１９８７

「義肢装具学」　第４版　川村次郎　編集　医学書院

「標準作業療法学、身体機能作業療法学、第二版」岩崎テル子編　医学書院

「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院

[単位認定の方法及び基準]

発表（５０%）、レポート・ポートフォリオ（50%）で評価する。60点以上で合格

授業概要			
日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

日常生活活動の概念，評価について学ぶ

[授業全体の内容の概要]

日常生活活動について理解し，評価スケールの一部であるＢａｒｔｈｅｌ　Ｉｎｄｅｘ機能的自立度評価（ＦＩＭ）について理解する

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

日常生活活動について理解し，評価スケールの一部であるＢａｒｔｈｅｌ　Ｉｎｄｅｘ機能的自立度評価（ＦＩＭ）について理解する

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	日常生活を送るということ．町の中の障壁とは？
2	日常生活活動とは？① （概念・なりたち）
3	日常生活活動とは？② （活動別問題点①）
4	日常生活活動とは？④ （活動別問題点②）
5	動作観察によるＡＤＬ評価①
6	動作観察によるＡＤＬ評価②
7	動作観察によるＡＤＬ評価③
8	動作観察によるＡＤＬ評価④
9	自助具について①
10	自助具について②
11	ADL評価スケールについて
12	Barthel　index
13	Functional　Independence Measure
14	総復習
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法学全書　日常生活活動　改訂第3版　協同医書出版社	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ・松木平 和人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

日常生活活動における活動企画及び問題点の抽出方法を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

日常生活活動の企画と移乗方法を学ぶ

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

日常生活活動の企画と問題点抽出ができるようになる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション
2	姿勢分析
3	動作分析（背臥位から端坐位）
4	動作分析（背臥位から端坐位）
5	動作分析（端坐位から立ち上がり・移乗）
6	動作分析（端坐位から立ち上がり・移乗）
7	移乗全介助
8	移乗部分介助
9	移乗全介助・部分介助
10	ADL　動作分析
11	症例を通して①　ADL評価
12	症例を通して②　ADL評価
13	症例を通して③　ADL評価
14	症例を通して④　ADL評価
15	まとめ　重心動揺計・マイオモーションにてADL動作確認

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
作業療法学全書　日常生活活動　改訂第3版　協同医書出版社	実技試験（50%）レポート課題（50%）. 60点以上合格. レポート課題の提出および実技試験の成績により評価する.

授業概要			
レクリエーション学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法士としてのレクリエーションの計画や立案、実施ができるようになるために必要な理論や知識、態度を学ぶことができる。レクリエーションを通して楽しみや、その先の対象者の生活を考えることができる。
事例に合わせたレクリエーションを考え、考察することができる。

[授業全体の内容の概要]

実際のレクリエーションを体験することや、レクリエーションを作業療法士が考えるにあたって必要な知識や、理論を講義や演習、ディスカッションを通して行っていく。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

レクリエーションに対する基本的な考え方を習得する。　作業療法士がレクリエーションを企画する際に必要な知識や理論を習得する。　対象者に合わせたレクリエーションの企画、実施できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	レクリエーションの概要　レクリエーションの目的・計画
2	レクリエーションの実施①
3	レクリエーションの実施②
4	レクリエーションの実施③
5	中間まとめ
6	レクリエーションの企画書作成
7	レクリエーション準備①
8	レクリエーション準備②
9	レクリエーション運営①
10	レクリエーション運営②
11	SSTのウォーミングアップ①
12	SSTのウォーミングアップ②
13	SSTのウォーミングアップ③
14	認知作業ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(COGOT)①
15	認知作業ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(COGOT)②

[使用テキスト・参考文献]

適宜資料（プリント、スライド）を配布　実技を伴うため、動きやすい服装が望ましい。
資料を挟むバインダーなど。　他、演習やディスカッションを行う。

[単位認定の方法及び基準]

レポート課題．60点以上合格．

授業概要			
職業関連活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

就労支援における作業療法の位置づけを理解する.

[授業全体の内容の概要]

職業リハビリテーションの理念と意義について学ぶ. 職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する.

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

職業リハビリテーションの理念と意義を説明できる. 職業リハビリテーションにおける作業療法の役割を説明できる.

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	職業リハビリテーション活動の概念
2	障害者と職業
3	障害者の就労制度
4	就労支援の実際（ジョブコーチ, IPS）
5	作業療法評価課程
6	作業能力評価の方法と実際Ⅰ（一般職業適性検査）
7	作業能力評価の方法と実際Ⅱ（職業レディネステスト）
8	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
平賀 昭信 他：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法技術書学4 職業関連活動 協同書出版	筆記試験（60%）レポート（40%）. 合算し60点以上合格.

授業概要			
作業療法治療学演習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
60 回	120	3 年・前期・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業療法教育を受けてきた集大成として卒業研究を行い，国家試験合格に必要なレベルまでの知識の習得を目指す

[授業全体の内容の概要]

卒業研究と国家試験対策

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

卒業研究の発表・国家試験合格レベルまで模試での得点がとれる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	臨床で経験した作業療法評価技術のまとめ
2	臨床で経験した作業療法評価技術理論のまとめ
3	臨床で経験した治療技術のまとめ
4	臨床で経験した治療技術理論のまとめ
5	各症例に関する臨床的推論についての討議
6	テーマ決定、文献による学習・まとめ、卒業論文作成
7	テーマについてグループ討議
8	パワーポイントなど発表準備、抄録作成
9	卒業論文、発表

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
私用テキストなし	授業参加態度により評価する 出席 50 点 授業態度 50 点 60 点以上を合格とする

授業概要			
臨床作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	佐名木 めぐみ	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
60回	120	3年・通年	必修

[授業の目的・ねらい]

国家試験の合格を目標に、学習スタイルの見直し、基礎三科目（解剖学，運動学，生理学）、専門分野等、しっかり知識を身につける。

[授業全体の内容の概要]

グループワークにてスケジュールに沿い実施

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

国家試験の合格レベル

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	作業療法に関する解剖学的思考
2	作業療法士に関する運動学的思考
3	作業療法士に関する生理学的思考
4	作業療法に関する総合的理解及び推論

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	試験（国家試験レベル）6割以上合格

授業概要			
地域作業療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

対象者の地域における生活を支援していくために必要な知識、技術を修得し、課題解決能力の向上を図る。作業に焦点をあてた作業療法の実践が地域生活へどのような影響があるかを学ぶ。

本講義では地域での作業療法士の役割とともに、多職種連携についても理解する。

[授業全体の内容の概要]

地域作業療法に対する興味、関心を高め、役割の理解と制度、支援、他職種との連携について学習する。また、生活行為向上マネジメント（MTDLP）演習を取り入れ、対象者の全体像を把握する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

地域における作業療法士の役割を理解し講義や演習、事例を通して、チームアプローチの必要性や社会サービスを理解できる。作業療法士独自の評価を活用でき地域における、対象者への支援が説明できる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション　地域作業療法の基盤と背景
2	地域作業療法を考察する
3	地域作業療法とは
4	地域作業療法を支える制度・社会生活支援
5	他職種の連携と協働を理解する
6	多職種連携グループ演習①
7	多職種連携グループ演習②
8	多職種連携グループ演習③
9	多職種連携グループ発表①
10	多職種連携グループ発表②
11	MTDLP 演習①
12	MTDLP 演習②
13	MTDLP 演習③
14	MTDLP 演習④
15	総復習

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
標準作業療法学　地域作業療法学第3版　医学書院	筆記試験．60点以上合格．

授業概要			
生活環境学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬　達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

作業と環境を切り離して考えることは難しく、種々の環境を移動しながら人間は生活を構成している。高齢者や障害者の日常的な生活の中で、住まいをどうすればいいか、住環境の整備ポイントを学ぶ。個々の福祉用具の特徴を押さえ、対象者に合わせた生活を提供する必要性を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

実習・講義を通して、住環境整備のポイントを押さえていく。福祉用具やリハ機器の名称、使い方を理解する．毎回の授業では前回の授業で学んだ知識を定着させるために振り返りの時間を設ける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

疾患に合わせた住環境整備の方法を学ぶことができる。福祉用具の特徴を整理し、個々の事例に合わせた目標設定ができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	オリエンテーション,生活環境学とは
2	住環境整備の意義
3	住環境整備の進め方と留意点
4	住環境整備における PT・OT の役割
5	疾患障害別にみる住環境整備①
6	疾患障害別にみる住環境整備②
7	疾患障害別にみる住環境整備③
8	疾患障害別にみる住環境整備④
9	疾患障害別にみる住環境整備⑤
10	住環境整備の基本的配慮①
11	住環境整備の基本的配慮②
12	住環境整備の基本的配慮③
13	移動用具福祉用具と住環境整備
14	事例検討
15	フィードバック

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
OT・PT のための住環境整備論　三輪書店	筆記試験．60 点以上合格．

授業概要			
地域作業療法学実習Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
回	40	1年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

地域でデイサービス，デイケア等の役割を理解する．

[授業全体の内容の概要]

地域でのデイサービス・デイケア等の役割を理解するために．実習を行う．

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

地域でデイサービス，デイケア等の役割がわかる．

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	1年次の8～9月にかけて40時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	実習施設での評価に，学校での発表等を加味し採点．60 点以上合格．

授業概要			
地域作業療法学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・吉野 孝弘・安部 美和・宮崎 仁伸・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
回	40	2年・前期	必修

[授業の目的・ねらい]

地域でデイサービス，デイケア等を利用する対象者の問題点を理解する

[授業全体の内容の概要]

地域で作業療法士が働く場を利用する対象者の問題・施設の必要性を知るために実習を行う

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

地域でデイサービス，デイケア等を利用する対象者の問題点が理解できる

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	2年次の8月に40時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	実習施設での評価に，学校での発表等を加味し採点．60 点以上合格．

授業概要			
臨床実習Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
回	80	1年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する。
・社会や医療の中における理学療法の責任を理解する。
・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。
・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。
・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。

[授業全体の内容の概要]

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に40時間を2施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。

授業概要			
臨床実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
回	200	2年・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・事業で学んだ知識・技術を実習指導者の下で実際に症例に応用する。
・評価の一連の流れを習得する。
・症例の身体機能、精神機能、生活機能を様々な角度から分析し、問題を把握する。
・医療人・職業人としての目を養い、心を養う。

・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。
・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。
・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。

[授業全体の内容の概要]

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	2年次の所定の科目を履修した学生は、学年末に200時間を1施設で実施する。 ケースレポートの提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。 (注意) 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。

授業概要			
臨床実習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	木立 美由紀・安部 美和・佐名木 めぐみ・廣瀬 達也・松木平 和人・冨高 史裕	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
回	640	3年・前期・後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。

・対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。

・リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。

・専門職・社会人として責任のある態度・講堂がとれるようになることを目指す。

・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。

・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。

・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。

[授業全体の内容の概要]

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

回	内容・備考
1	2施設で計640時間の実習をおこなう。 ケースレポート、発表用のレジュメの提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。 (注意) 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
	実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。